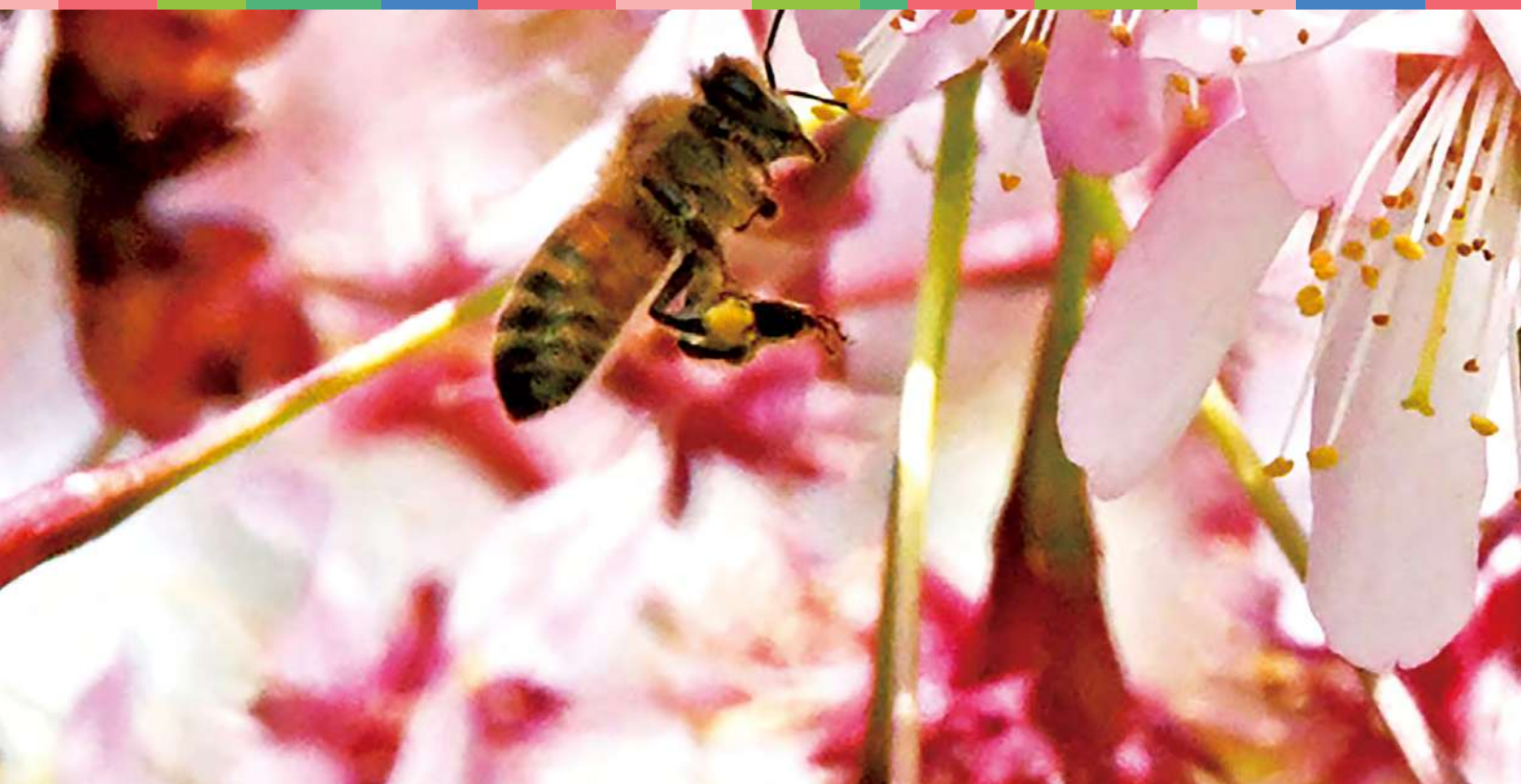





自然共生サイト認定

30by30



An aerial photograph of a lush green landscape. A river flows through the center, surrounded by dense green trees and fields. The scene is vibrant and natural.

軽井沢タリアセンの敷地は、さほど  
広大ではないながらも森、草原、湿地、  
池沼を含む千姿万態の地形によって  
構成されていて、観光施設として人  
の手が入ることにより、興味のある  
方は誰でも間近で多様な生物を発見  
することができます。

このように特徴ある敷地が、2026年  
3月に日本版 OECM の「自然共生サイ  
ト」に認定されましたので、これま  
での活動を含め認定内容を簡略版に  
てお知らせいたします。

TALIESIN



# 自然共生サイト認定の概要

## 活動計画名

軽井沢タリアセンにおける里山の生物多様性保全のための管理計画

## サイトの概要

タリアセン園内のうち（生態系タイプ）里山林、二次草原・草地、創出緑地にあたる合計 11.5ha が、「既に生物多様性が豊かな場所を維持する活動」の対象区域として認定されました。

### 里山林

かつては薪や炭の材料を伐り出していました。戦後に木材供給のためカラマツが植林されましたが、需要がなくなり手入れされずに放置されたため、60 年生以上の大木が多く残っています。植林後に侵入したコナラやクリ（かつての薪炭材）も所々に生育しています。

### 二次草原・草地

かつては馬の餌などのため採草地として利用されていました。2019 年の台風 19 号による崩壊跡地も刈払いにより草地の状態を維持しています。カタクリやミツバツチグリ、ヤマユリ、オカトラノオ等の草原性植物が多くみられます。

### 創出緑地

開園後、植栽等により広場や庭園、遊歩道が整備されたエリアです。シバやオオバコなど背丈の低い草本と多様なコケ類が生育しています。



## 認定された生物 多様性の価値

かつての里山地域において、本来の土地利用を比較的活かしたレジャー施設として 1971 年に開園しました。その後も景観整備のため草刈りや剪定、枯死木の伐採などの手入れを続けてきたことにより、里山的環境でみられる野草などが多く自生する環境が現在まで維持されています。

里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場としての価値



来園者が新緑や紅葉など季節の自然を楽しみながら、自由に散策できる園内環境が整備されています。毎年開催している観察会では、在来種を中心とした地域の自然環境に親しむ機会を提供しています。また里山林から伐り出した木材をレストランの薪ストーブで燃料として活用しています。

生態系サービス提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値

希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値



2013 年から継続している毎年の植生調査により、環境省レッドリスト掲載種のうち 8 種、長野県版レッドリスト掲載種のうち 15 種の生育が確認されています。

## 認定された活動内容

# 1

## 手入れ

### 草刈り

開園シーズン中、広場や遊歩道などのエリアは、それぞれの景観や植生に合わせて季節・草丈を考慮した刈払いや落ち葉の除去を行っています。また冬季には、樹木の剪定や伐採管理を行うほか、里山林林床のササと枯草の刈払いもを行っています。地表を明るく保つことで、早春にはカタクリやニリンソウなどの“スプリング・エフェメラル”が一斉に開花するなど、季節ごとに様々な山野草の生育がみられます。

### 伐採

里山林のうち約0.1haで、実験的な小面積皆伐を行いました。長い間手入れがされず大木に覆われていたエリアにギャップを作ることで、林床が明るくなり種子の発芽や実生の成長が促されると考えられます。また伐採した切り株からは、萌芽力の無いカラマツに変わり、コナラ・クリ・サクラ類などが再生すると期待されます。

### 野焼き

里山林の林縁部のうち、約0.2haを野焼きの手法で管理しています。火入れは林床の植物が発芽し始める直前の3月下旬に行います。地表に堆積した落ち葉や枯草を焼き払うことで林床が明るくなるとともに、灰による黒化、土壌中の栄養塩の増加などの環境変化が生まれ、種子の発芽や植物の生長が促されることが知られています。



# 2

## 調査

### モニタリングサイト 1000 里地調査

2013 年より環境省「モニタリングサイト 1000 里地調査」に登録し、里山林エリアの野草を対象とした植生調査を続けています。調査は毎年 4～10 月に月一回行い、林床植生の季節変化や年変化を観察しています。

#### 野焼きおよび伐採地、 土砂崩壊地の植生調査

野焼きによる管理区画および伐採を行った区画、台風による土砂崩壊地では、毎年夏に植生調査を行っています。計測器により林床の温度・光環境も計測しており、それぞれの管理手法による環境と植生への影響を調べるとともに、植生遷移の過程をモニタリングしています。

#### 訪花昆虫調査

主にトラマルハナバチを対象とした訪花昆虫調査を行います。調査は毎年 5,7,9 月に月一回行い、季節ごとの昆虫と利用植物の関係を調べます。

#### コムクドリの営巣調査

「NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ」と連携し、園内 8 か所に鳥の巣箱を仕掛け、軽井沢に渡り鳥として飛来するコムクドリの生息状況を調査します。巣箱はコムクドリの営巣環境に合わせて直径 4cm の入口を設け、地上から約 4m の高さの木の幹に固定しました。適宜、巣箱の利用状況を観察しています。





# 3 活用

## 薪ストーブの燃料

枯れ木や支障木を剪定・伐採した木材はスタッフが薪へ加工し、園内レストランに設置してある薪ストーブの燃料として活用しています。また枝などは町が運営する貯木場へ搬入することで、ウッドチップや薪として地域内で循環利用されています。



## ハロウィン落ち葉さがし

毎年ハロウィンシーズンに合わせ、園内の落ち葉をスタッフが拾い集めて押し葉にし、型抜きを施したものを使って宝探しゲームを開催しています。見つけた落ち葉は記念に持ち帰ることもでき、散策を楽しみながら植物に触れ興味を持つきっかけにもなります。



